

防災ラジオドラマ

グループ名「一緒に災害から身を守ろう」

タイトル 「午前7時」

●プロローグ

台風が近づき、大雨の朝。学校が休みにならないかと思いつながら、健司は朝のニュース番組を見ていた。しかし近畿圏で大阪だけ雨にならず、不満を言っていると、隣にいた母親が台風についての話をし始める。

●登場人物

司会・・・(30代アナウンサー)

タレ1・・・(タレント。40代後半の大阪出身、コテコテナな関西弁が好き嫌いをよぶ。)

タレ2・・・(タレント。大阪出身のタレント 男性)

天キヤ・・・(テレビ局の天気予報士)

健司・・・(主人公。16歳 男性 警報が出て学校が休みになった日はいつも友達の家遊びに行く。家にいるよりも外で遊ぶのが好きな少年
身長168cm 体重58kg)

母・・・(主人公健司の母。45歳女性。毎朝新聞の週間天気予報を見るのが楽しみ

天気予報士の資格を趣味で取るほどの天気マニアもっている。

夫はテレビ局で働いている。天気の事なら主婦の中で一番だと言われている。
身長158cm 体重53kg)

朝のテレビのニュース番組

BGM1スタート

司会「続いて、お天気コーナーです」

天キヤ「はい。大型で非常に強い台風が、本州に上陸しました。近畿圏ではすでに、兵庫、京都、滋賀、奈良、三重、和歌山県全土に暴風、大雨警報が出されています。

大阪は、箕面市が暴風警報を出していますが、その他の地域では、暴風注意報です。詳しくみていきましょう…」

BGM1フェードアウト

司会 「また大阪だけ警報出てませんねー」

タレ1 「ほんまやで、ええとこにすましてもらってますわ」

タレ2 「それにしても、気象庁の地図見たらハミゴにされてるみたいやね
大阪だけ黄色って（笑）」

タレ2 「まあ、学生さんからしてみりや警報出てほしーんやろなあ
大阪の学生さんだけ、この雨の中いかなあかんねやろ」

司会 「そうですねえ」

タレ1 「こんな大阪の警報出す人らが学校行かすためにわざと出してへんのんぢやん

司会 「いや、流石にそれはないと思いますよ。」

タレ2 「なんか、形と色見たらバナナにみえてきた」

テレビ全体から「ハッハッハッハッハッハッハ」（笑い声）

ピっ（テレビを消す音）

BGM2スタート

（リビングで息子と一緒にテレビを見ていた状態から息子と会話を始める）

母 「私この番組嫌いやわ」

健司 「じゃあ、つけへんかったらええやん」

母 「この局が一番早くに最新の災害情報流してくれるから仕方ないんよ」

健司 「どこも同じくらいなんとちゃうん？」

母 「結構局によって違うもんやで。気象庁のデータと、そのデータをもとに
気象予報士が予想するの」

健司 「へー、お天気キャスターの人って、自分で予想するんやね

警報は東京の気象庁が全部出してるん？」

母 「いいえ、全国に5か所ある管区気象台が管理しているんよ。大阪やと
大阪管区気象台が出してるんやわ。」

健司「それでも5か所だけなんや」

母「その地域の主要都市におかれてんねん。沖縄だけ管区气象台やなくて
沖縄气象台が担当してるんやけど、その大きさと規模から法令で管区气象台と同
等に
地位にされているわ」

健司「チクショー！なんで毎回大阪だけ警戒区域になんねーんだよー

天気図見ても絶対におかしいよ、ほんまに、テレビの人が言ってたみたいに
イジメられてる感じがする」

母「そんなこと言わへんの。警報にならん方がいいでしょ。

あんた、大阪の警報注意報の基準って知ってるの？」

健司「基準てく、そりゃあ、あれでしょ？雨の量とかなんじやないの？」

母「大阪管区气象台のホームページでは、

『警報とは、重大な災害が起こるおそれがあるときに、警戒を呼び掛けるために
行う予報。また、注意報は災害が起こるおそれがあるときに、注意を呼び掛ける
ために行うもの』で、気象要素、つまり雨量、風速、波の高さの基準に達すると
予想した区域に発表するの」

健司「オカンすごいな（笑）なんでそんなん知ってんの？」

母「これくらい知っとかないとね」

健司「誰に教えてもらったん？」

母「うーん、学校では教えてもらわなかったなあ。小っちゃい頃オカンに教えても
らったことぐらいやなあ。学校でしっかり勉強するようにすればええと思うんや
けどなあ」

健司「せやな。自転車のルールとかは学校で習うんやけど、災害については

小学生のころ、先生に机の下に隠れるー！って言われたことぐらいやな。
防災訓練も、小学校の頃から毎年、家庭課室から火が出ましたーっていうてグ
ランドに集合して、タイム競うだけやもんね」

母「せやなあ、学校でもっと災害について勉強させんのも大切かもしれんなあ」

健司「それにしても、大阪は全然台風こーへんなあ」

母「昔は結構台風直撃したことがあったみたいやで。」

そのせいで大きい被害もあったみたいやで。台風自体、エネルギー源が暖かい海水やから、大阪直撃っていうてもその前に四国を通る段階で、黒潮からコースが外れるんや。

せやから近畿でも和歌山の方がいつもひどくなって、大阪では影響が他よりも小さなんの。それと大阪は、京都や奈良の山が守ってくれてるのも理由の一つやな。ていっても、やっぱり一番台風からの影響が少ないのは、東北や北海道やけどね」

健司「へー、大阪に台風の影響が少ないのが分かったよ。でも油断してちゃだめだよな」

母「そうやなあ、自然災害はいつでもどこで起こるかわからんからなあ。

阪神淡路大震災起きた時、私もまさか兵庫で地震が起こるとは思わなかったから。」

健司「毎年いくつくらい台風発生してるん？」

母「気象庁の発表によると、1981年から2010年の平均で、年26個発生していて、平均で3個日本に上陸しているらしいわ。」

健司「そんなに発生してるんや！」

母「上陸せんくても、平均で11個が日本から300km以内に接近してるから、本州から離れた小さな島とかは、かなり影響があると思うわ」

健司「へー、将来南の小さな島で住もうと思ってたやけど、それ聞いたら、島で暮らすん、ちよっと怖なってもたわ」

母「あんた、南の島で暮らそうと思ってたん？お気楽ねえ」

健司「それにしても、なんで暴風警報じゃないと学校休みにならへんねーん
洪水警報でも休みにしていいやろ」

母「自治体によって変わるんよ。警報が3つで休み、洪水警報が出たら休み。その地域によって特性が違うわ。私たちが住んでる豊中市服部付近だと、海に近くないし、山もない。洪水の危険も少ない地域だわ。だから暴風警報なの」

健司「じゃあ、暴風はちっちゃい子供が飛んで行っちゃうから危険なん？」

母「暴風が危ない一番の理由は、『ものが飛んでくるから』が一番だと思うわ
トタン屋根が飛んできたらとんでもないからね。それに、電車も暴風だと横転の危険があるから運転できないの。だから遠くから学校に来てるのが来れないでしょ」

健司「へえー。いつつも大雨警報出てるのみでテンションあがるけど、暴風だけ注意報の時はテンション下がるわあ」

母「なにいつてんの！洪水や暴風って、ほんとに危険なの！そんな嬉しがるようなことやないの」

健司「ごめんなさい。」

母「でも、やっぱり大阪はちよつと警報出さなすぎるとこあるかもね。ネットで大阪管区気象台に対する苦情のスレッドがたつくらいだし、向うにクレームの電話も多いらしいわ、なんで大阪だけ警報出さないんだーって。」

健司「まあ、学生からしてみれば学校休みたいもんね。テストの日とか。

でも、府民のことを思ってやってくれてるんだらうね。」

母「ちよつとは私の言ってること分かってくれた？」

健司「うん！あ、雨おさまってきた！

母「ほんまや、これで洗濯もん干せるわあつてあんた学校は？」

健司「あああ！ついつい長話してもた！警報出てないし、学校あるやん。遅刻や！」

母「雨もやんできたんやし、走っていき！」

健司「行ってきまーす」

BGM2大きくなり、終了。

こうして、健司は台風についての知識が増え、警報が出ている時は本当に危険だということを理解した。これで、もう警報の日以外に遊びに行くようなバカな事はしないだろう。